

# 美濃の名僧 栄叡

がんにんわじょう  
- 鑑真和上を

にほん まね にほんじんそう  
日本に招いた日本人僧 -

鑑真  
がんにん

栄叡  
ようえい

やまもと  
山本

ひら  
漢



## 美濃出身 崇叡大師とは、どんなことをした人？

**時** は奈良時代、聖武天皇の時代に遡ります。この頃、聖武天皇は、仏教には国を安定させる力があると考えて

いました。仏教は国の保護下に置かれ発展、特に平城京内の薬師寺、興福寺、法隆寺をはじめとする多くの寺院では、僧侶が仏教の教理をはじめ多種多様な研究や、国を安定させるための活動を行っていました。僧侶は仏教だけの専門家ではなく、政治、経済、芸術、科学といった多くの分野の専門家だったのです。そのため、僧侶は税金や労務を免除されてきました。しかし、税金や労務を免除されることだけに目を付けた庶民や農民が、税金逃れのために勝手に髪を剃って私度僧になってしまいました。こんなことが可能になってしまったのは、仏法を正しく導く人がいなかったことが一因です。さらに、このような状況では、国の税収が減少し、税収を基礎として成り立つ律令国家の土台をも崩しかねません。聖武天皇は、このようなことを憂い、正しい仏法を授ける戒師の必要性を感じていました。そこで、聖武天皇は、興福寺の僧「崇叡」、大安寺の僧「普照」に、戒師を唐より日本に招聘するよう命じました。

**勅** 命を受けた崇叡は、普照とともに遣唐使船で唐に渡ることになりました。遣唐使船は長さ約三十メートル、幅七〜八メートル、帆柱二本の平底箱型で鉄釘はほとんど用いず、平板を継ぎ合わせて造ったため、波切りが悪く不安定

で、強風や波浪に弱い欠点がありました。さらにこの時代は、季節風を知らず航海術も未熟で遭難する船も多かったようです。無事任務を果たし帰国できたのは、半数に過ぎないとも言われています。

## 命

がけの渡航を行った兩名は、長安や洛陽などで研鑽を積み、人脈を作りました。そして九年の歳月を経て、ようやく鑑真和上に出会うことができました。崇叡は、鑑真和上に、日本の仏教の現状、伝戒の師の必要性を説き、日本に渡る人物の推薦を依頼しました。しかし、大きな危険の伴う日本への渡航をする者が現れなかったため、鑑真和上自身が渡航することを決意しました。最終的には、二十一名もの弟子が同行を申し出ました。けれども、鑑真和上の弟子の中に、命がけの日本渡航を阻止したいと思う者がいるのは当然であり、鑑真和上を失いたくない一心で、弟子による妨害工作が行われました。嘘の密告をされたことで、崇叡らは投獄され、一回目の渡航計画は頓挫しました。その後、密かに準備を進めるも、沿岸部での遭難、密告による妨害により、失敗を繰り返しました。そして、五回目の渡航において、ようやく東シナ海へ出ることができたのですが、大海の強風、波浪により遭難、日本とは逆方向にある海南島に漂着してしまいました。この頃から崇叡の体調が崩れ始め、端州龍興寺において死去しました。崇叡四十歳ごろと言われています。鑑真和上を日本に招聘するという任務の途中で亡くなったことは、さぞかし無念であったらと思うられます。このような状況で、鑑

真和上も目が見えなくなりりましたが、それでも、鑑真和上の気持ちは変わっておらず、さらなる渡航計画を進めました。

そ

んな最中、藤原清河を大使とする遣唐使船が到着しており、普照らは、遣唐使船の帰路に乗せてもらえるように頼みます。そこで、藤原清河は、唐の玄宗皇帝に鑑真和上

らの渡航の許可を求めたのですが、道教の導師の同行という条件が付けられました。そのような条件は到底飲めるものではなく、許可の無いまま、鑑真和上らに乗せることにしました。こうして、六回目にしてようやく渡日に成功しました。

奈良に着いた鑑真和上は、ただちに東大寺に「戒壇」を設置、聖武天皇を始め多くの人に戒を授け、その後「唐招提寺」を建立したことで、仏教の礎を築いたと評価されています。また鑑真和上は、仏教以外にも建築や絵画、医学、行政、司法、立法などを通じており、それらの文化も日本に伝えたと言われています。こうして栄叡が念願としていたことが、二十一年の時を経て叶うこととなったのです。

現

在、中国では、栄叡のこのような功績を称え、「栄叡なくして鑑真日本に渡らず」と記念碑が建立されています。

平

成四年四月、鑑真和上坐像が日本から中国へ里帰りする際、栄叡大師と言う人物がおり、そして美濃出身であることを知った岐阜県名誉県民 古田好氏は、日中文化交流の先覚者として顕彰された栄叡を日本へ里帰りさせたいと考えました。中国へその旨を伝えると、「日中友好文化交流の

上からも大いに意義深い」と多大の協力を頂きました。奈良時代に素晴らしい功績を遺した栄叡大師を里帰りさせたいと、「日中友好文化交流 栄叡大師里帰り実行委員会」を結成。その後、栄叡大師坐像が中国の仏教協会の協力を得て四体作られました。栄叡大師は四体の坐像となり、里帰りが実現、平成七年長良川国際会議場にて、「栄叡大師一二五〇年坐像奉迎 慶讃大法要」が行われました。その後、栄叡大師にゆかりのある四つのお寺、正眼寺（岐阜県美濃加茂市伊深）、唐招提寺（奈良市）、興福寺（奈良市）、真福寺（岐阜市）へと安置され、唐招提寺にて鑑真和上坐像とご対面することができたのです。

**美** 濃出身である栄叡大師の「日本で正しい仏法を伝えてほしい」という熱意が鑑真和上を渡日させ、鑑真和上が伝えた戒律のお陰で、日本仏教は今日まで連続と伝え続きました。しかし今日では、その事実が知られていません。そこで、栄叡大師奉賛会では、このような偉大な功績をもつ栄叡大師のことを多くの皆様に知っていただきたく、この漫画小冊子を制作いたしました。一人でも多くの方に愛読いただき、栄叡大師のことを誇りに思っていただけだと幸いです。



七四八年頃  
唐は桂江

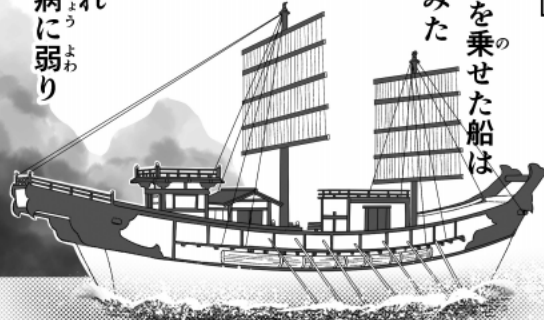
唐の高僧・鑑真和尚を乗せた船は日本への渡航を試みた

しかしその渡航も

2、3、4回と  
遭難や拘束の末  
失敗に終わった

5回目の渡航では、  
激しい風雨に襲われ  
乗員は船酔いや熱病に弱り  
何日も漂流

その果てにたどり着いたのは  
日本ではなく  
はるか南の海南島  
その地から再度北に向かう道中



栄叡どの…!!



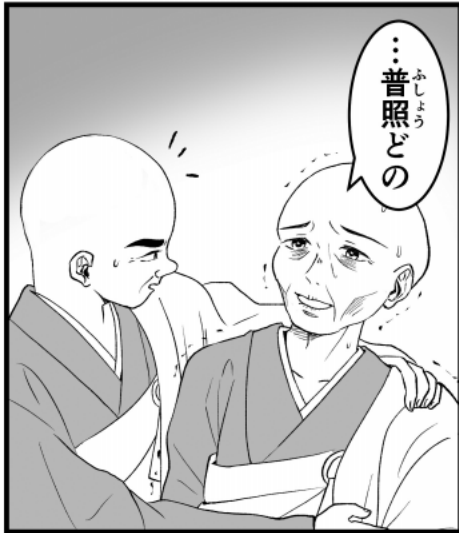
——これはいかん

ひどい熱だ

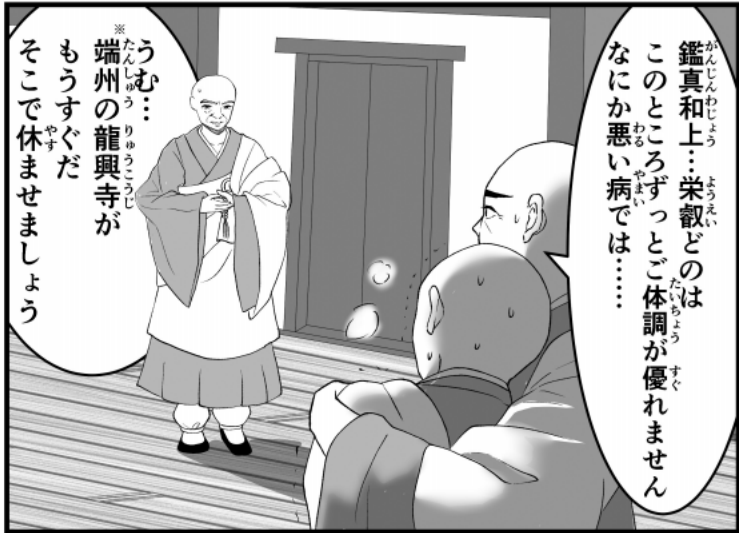
大丈夫ですか!?



栄叡どの!!



…普照どの



鑑真和上…栄叡どのはこのところずっと体調が優れませんなにか悪い病では…

うむ…  
\*端州の龍興寺が  
もうすぐだ  
そこで休ませましょう

※現広東省肇慶市。



は…



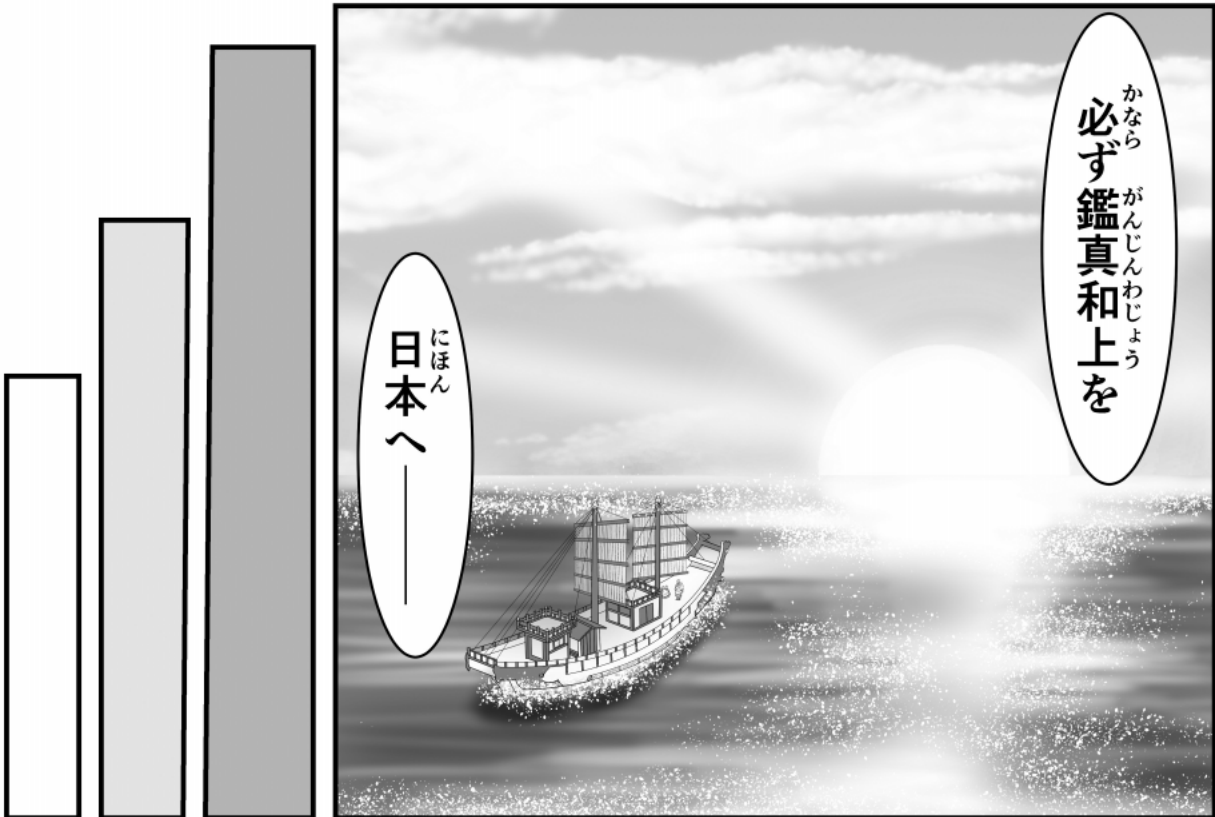
死ねません

それまでは…



大丈夫です

私たちには  
和上を無事日本へ  
お招きする使命がある…



かならず  
鑑真和上を  
必ず

日本へ

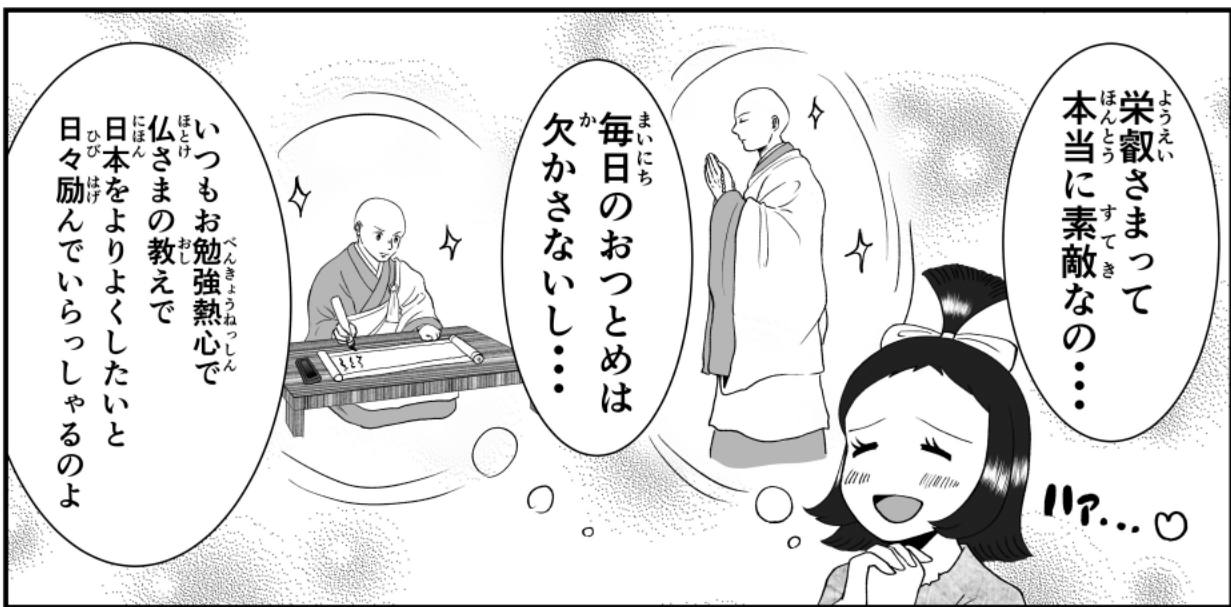


時は遡り  
七三三年  
日本は聖武天皇の治世……

ねえねえおとう！

きょう  
今日はまたお坊さまの  
せつぼう  
説法を聞かせて  
もらえるんでしょ？  
わたしとーっても楽しみ！！

あいだ  
この間の栄叡さまのお話  
ようえい  
すっごくためになったわ！！



ようえい  
栄叡さまって  
ほんとう  
本当に素敵なの……

まいにち  
毎日のおつとめは  
か  
欠かさないし……

べんきょう  
いつもお勉強熱心で  
ほとけ  
仏さまの教えで  
にほん  
日本をよりよくしたいと  
ひび  
日々励んでいらっしやるのよ

!!?...♡



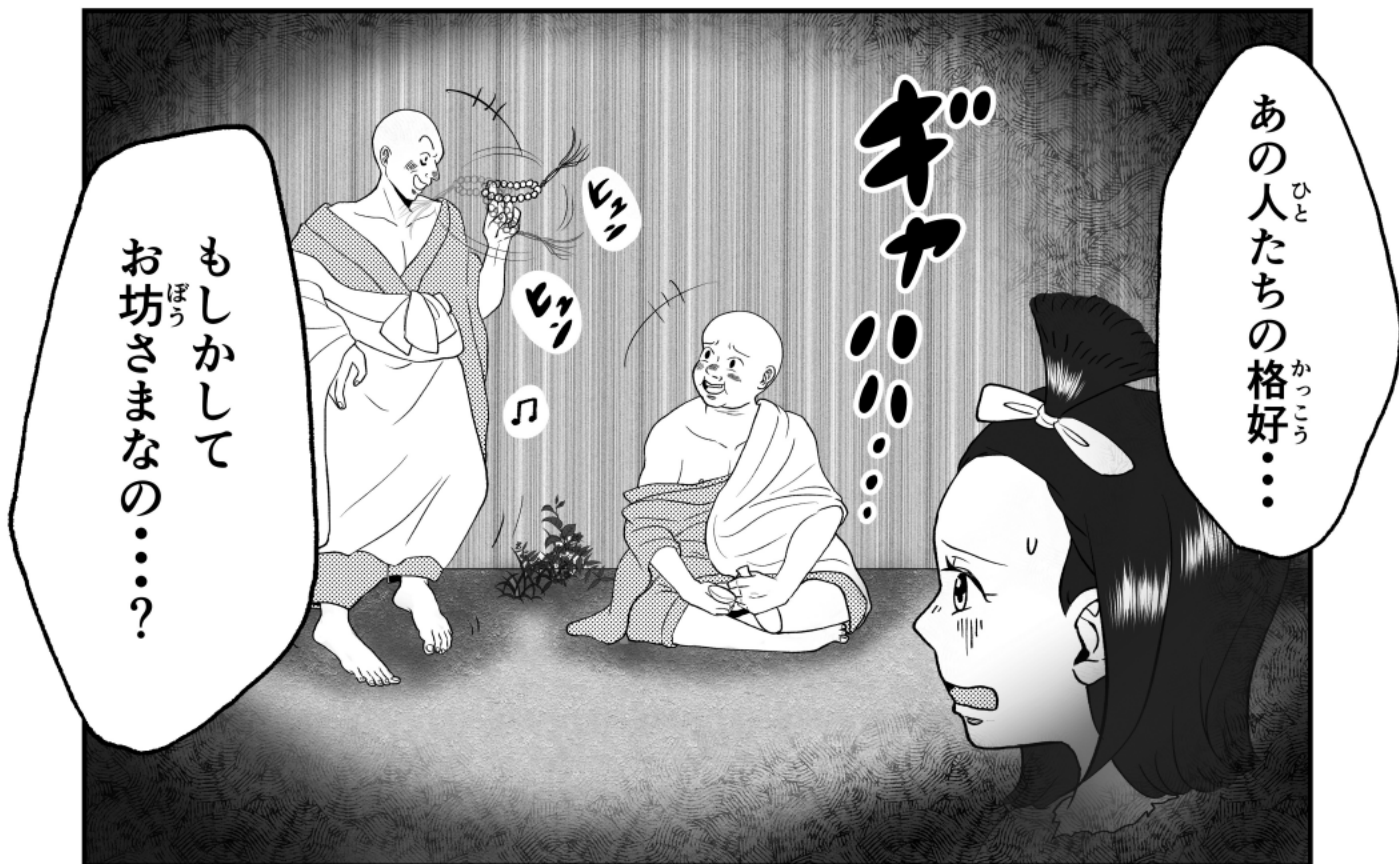
あれは……

え……



わたし将来は  
ちようえい  
栄叡さまのような  
お坊さまになりたい！！

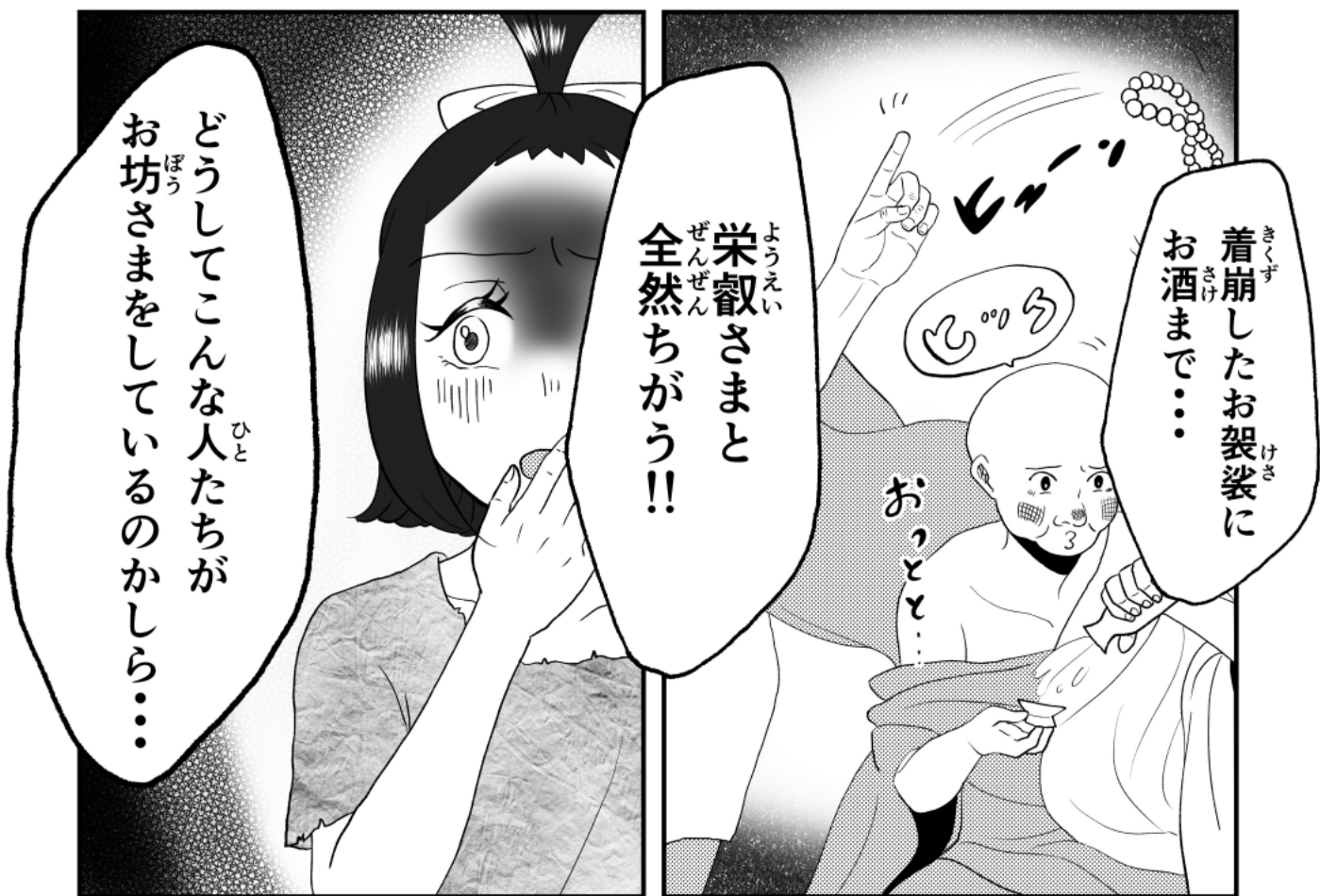
ギハハハ!



あの人たちの格好…  
ひと かつこう

もしかして  
お坊さまなの…? ぼうさま

ギャハハハ



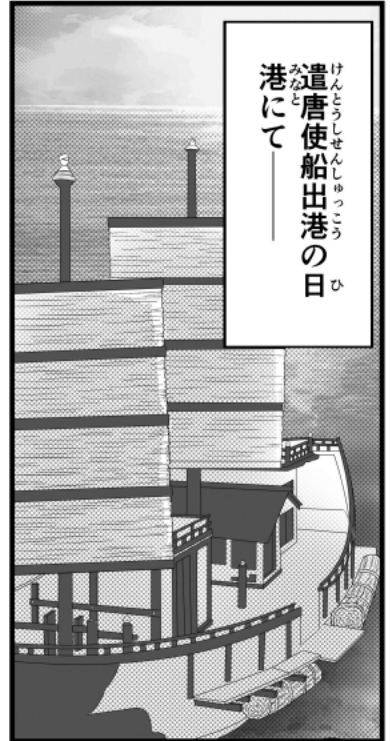
着崩したお袈裟に  
お酒まで…  
きくず さけ

栄叡さまと  
全然ちがう!!  
ようえい ぜんぜん

どうしてこんな人たちが  
お坊さまをしているのかしら…  
ぼうさま

おつとと…

遣唐使船出港の日  
港にて



はあーっ  
今回も見事な  
遣唐使船だよな!!  
四隻も!!



なんでも今回は  
興福寺の  
栄叡さまと普照さまが  
留学僧として唐に  
お渡りになるんだと!

えっ何のためにかね?

いやー最近百姓らが  
年貢の徴収を逃れるために  
続々出家しとるだろ?

それを御門(聖武天皇)が  
嘆いておられてな……

そこでだ!  
三師七証による  
正式な授戒を  
我が国でも  
出家の条件とするべく

授戒の師を  
唐からお招きする  
任を担ったのが  
栄叡さまと普照さま  
だって話だよ!

※僧や尼僧らには、税金や労務を免除される特典があった。

こりやその授戒の師とやらが  
来なさる前に  
オラも出家しとかんとな!

まっっ!!  
滅多なこと言わんでよ  
このうつけが!!

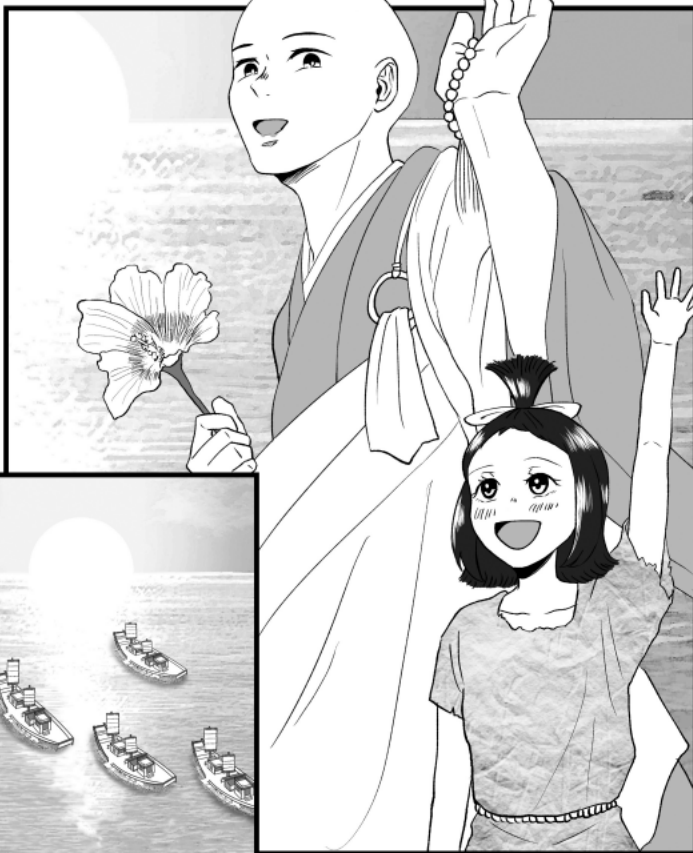
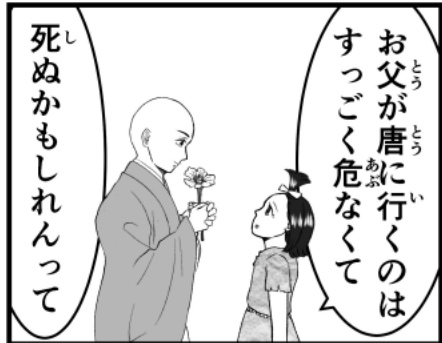
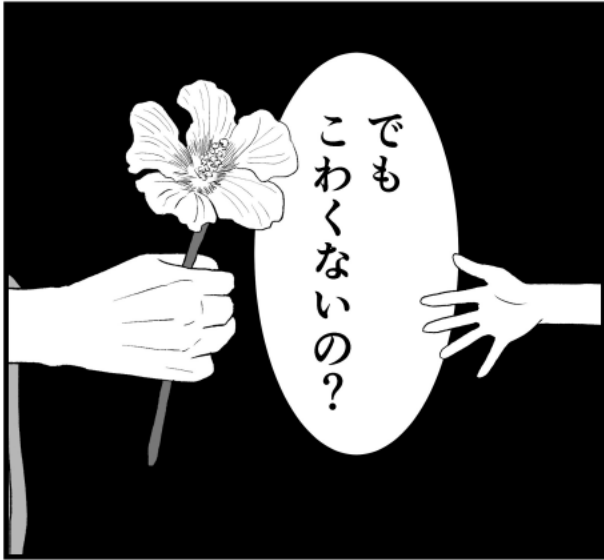


栄叡さま

あ、みーちゃん

三師七証……修行者に戒を授けるとき三師と七証の十人の僧戒を授ける直接の師である戒和尚(かいわじょう)、戒場で作法を実行する羯磨師、作法を教える教授師と七人の証明師。







唐に着いた  
栄叡と普照は  
9年の修行を経て



長安大安国寺の  
僧・道杭と

宰相・李林甫の手引きにより

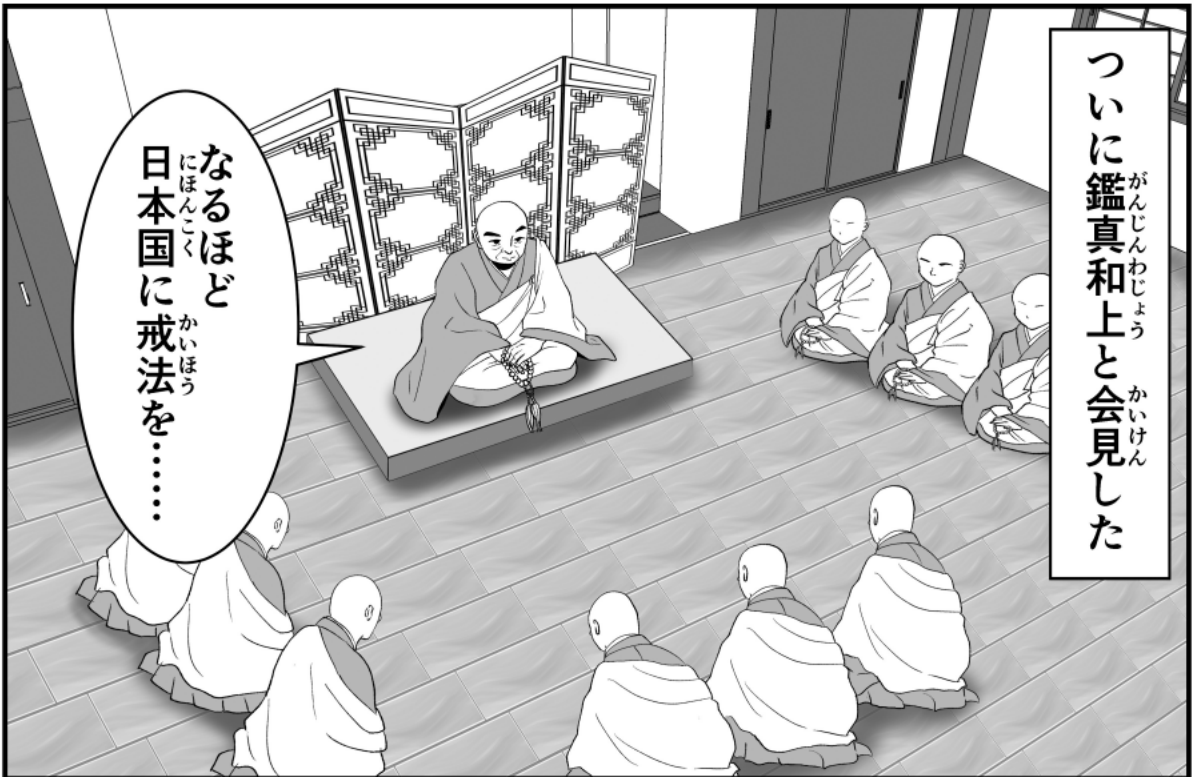
※へ書き下し文

さんせんいきをことにすれども

ふうげつてんをおなじうす

これをぶっしによす

ともにらいえんをむすばん



ついに鑑真和上と会見した

なるほど  
日本国に戒法を……

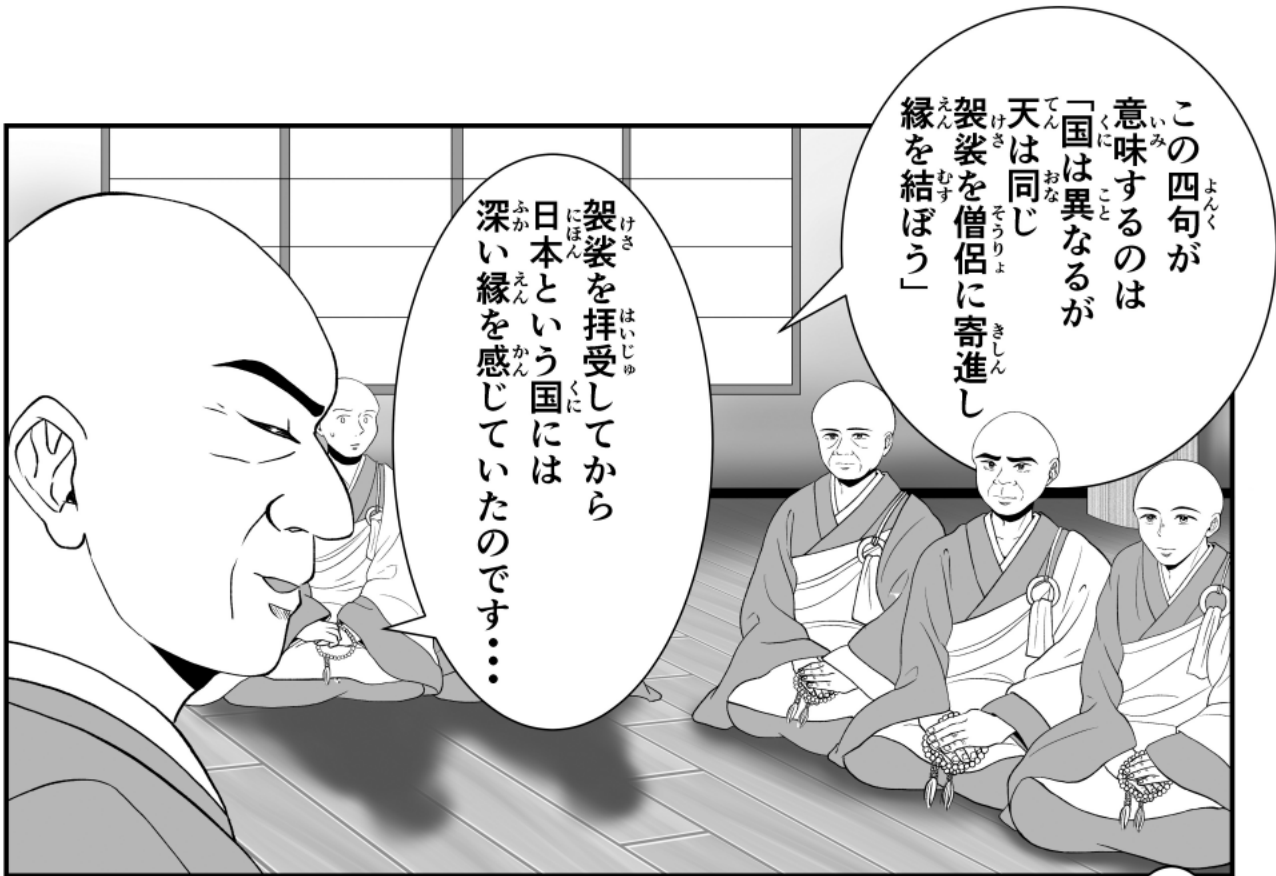


以前に日本より……



※「山川異域 風月同天  
寄諸仏子 共結来縁」と  
刺繍された

袈裟を賜ったことが  
ございまして……



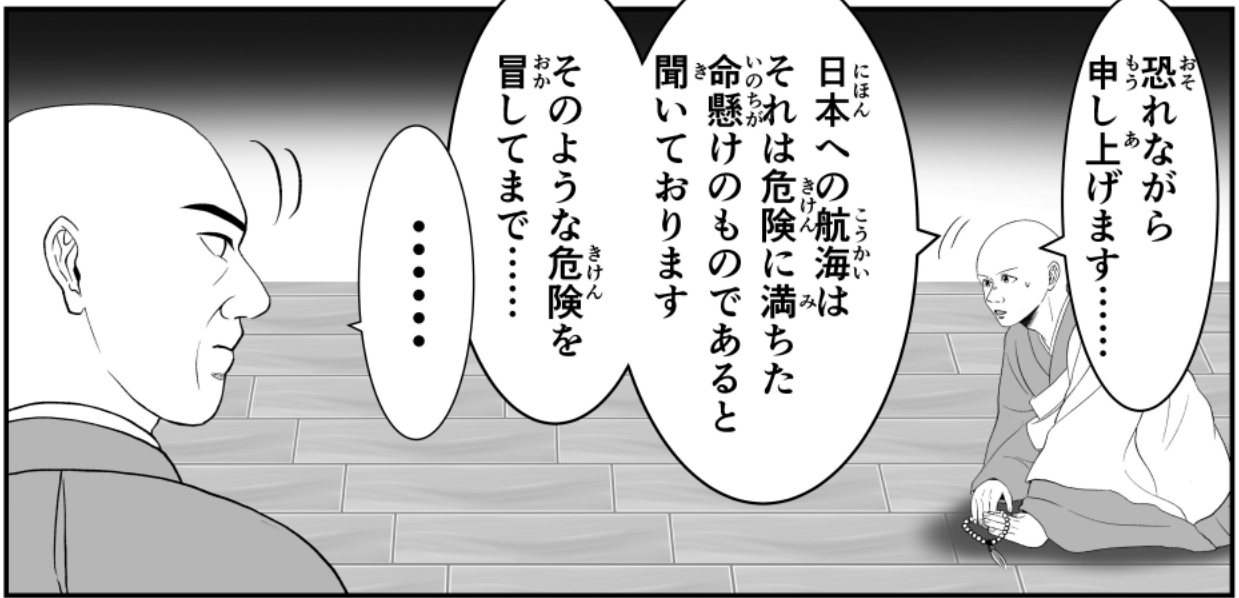
この四句が意味するのは「国は異なるが天は同じ」袈裟を僧侶に寄進し縁を結ぼう」

袈裟を拝受してから日本という国には深い縁を感じていたのです……



要請にこたえて

誰か日本へ渡るものはおらぬか？



恐れながら申し上げます……

日本への航海はそれは危険に満ちた命懸けのものであります聞いております

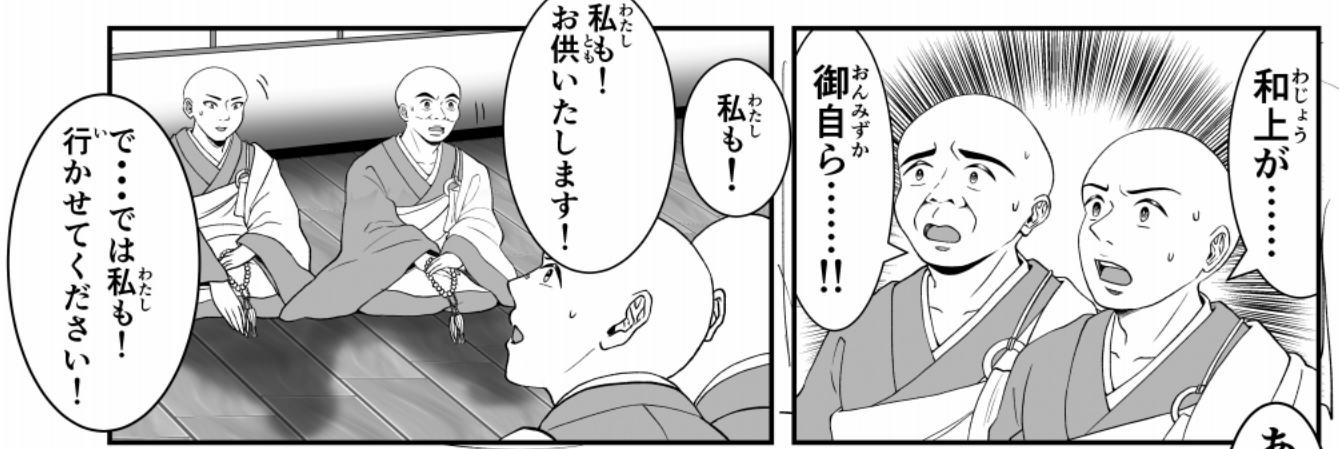
そのような危険を冒してまで……

……



ぶっほう  
仏法のためである  
いのち  
命を惜しむべきでは  
ない!!!

まえ  
お前たちが  
行かないなら  
わたくし  
私が行く!!!



わたくし  
で...では私も!  
行かせてください!

わたくし  
私も!  
お供いたします!

おんみずか  
御自ら...!!

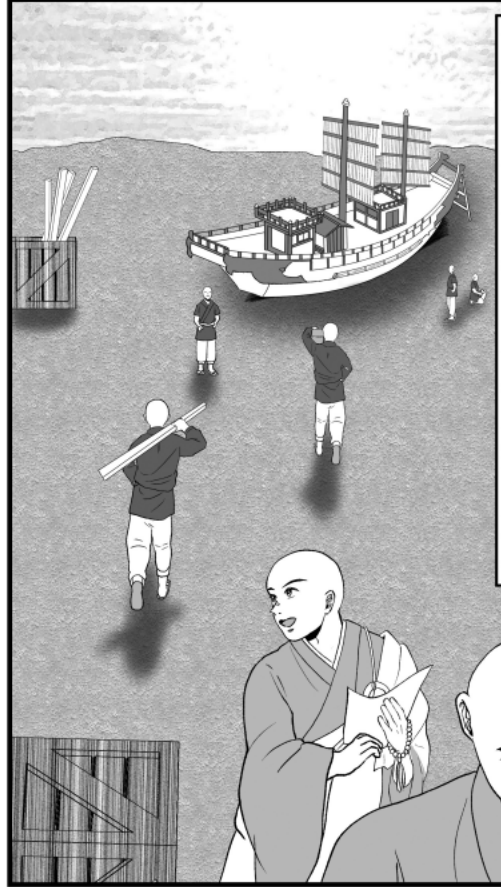
わじょう  
和上が...



ありがと  
有難う.....  
ござります.....!!

あ.....

栄叡一行は早速日本への渡航準備に入ったが――



唐の高名な僧である鑑真和上が日本に渡るのを



快く思わない如海という僧により

内密に行われるはずの渡航計画は

役人に密告され――



栄叡、普照、道杭らは押しかけた兵に捕らえられ、獄に入れられた



こうして一度目の渡航計画は失敗に終わったのである

その後試みた  
二度目の渡航も



激しい嵐に遭い  
失敗に終わる……

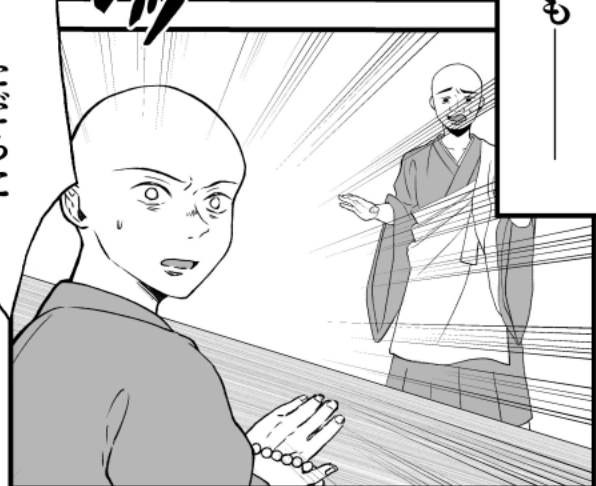


栄叡とやらは  
いるか

そして三度目も



ただちに  
連行する

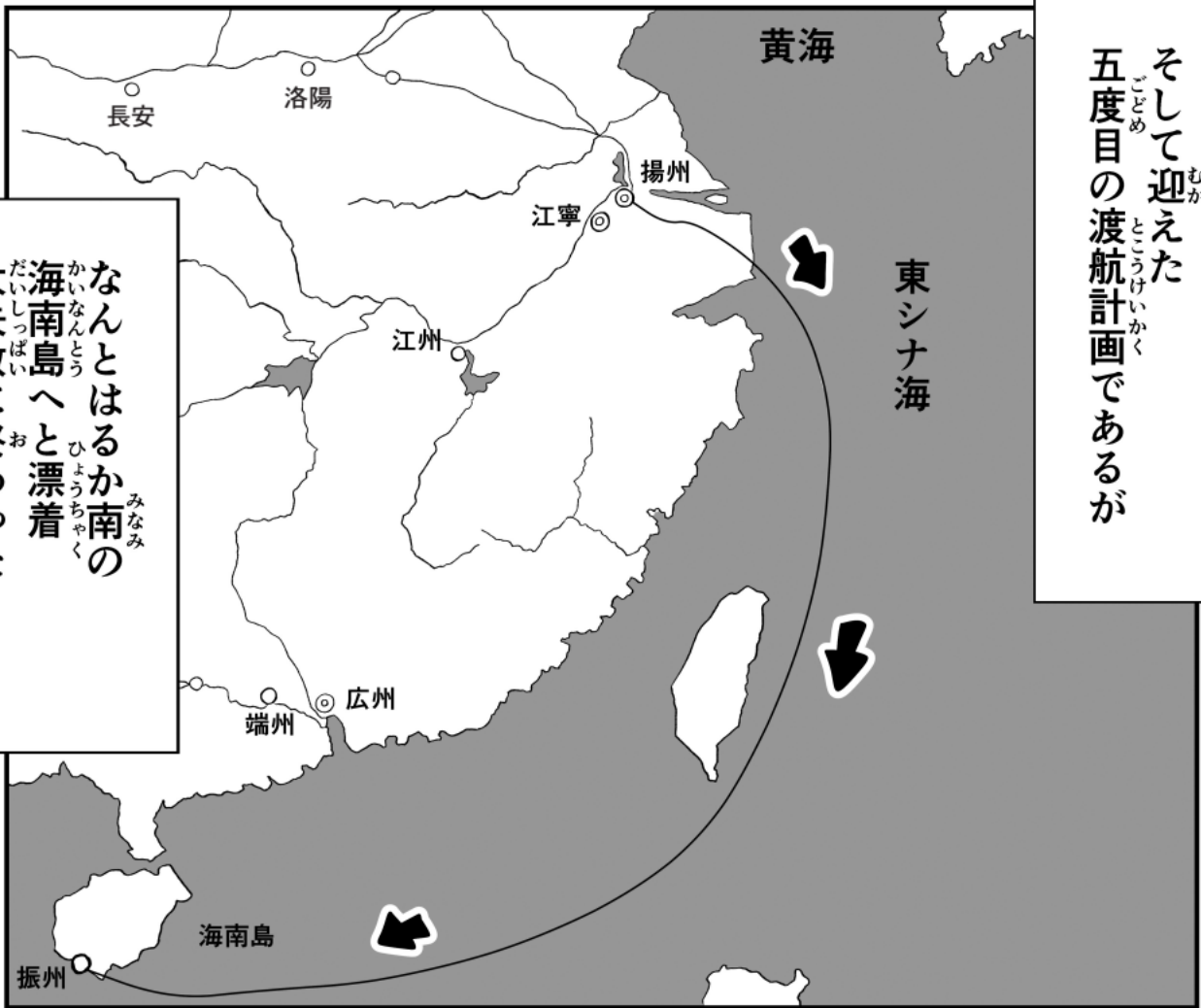


鑑真和上をそそのかし  
日本への密航を企てたとして  
栄叡は捕えられた

※その後運よく釈放されている。



そして迎えた  
五度目の渡航計画であるが

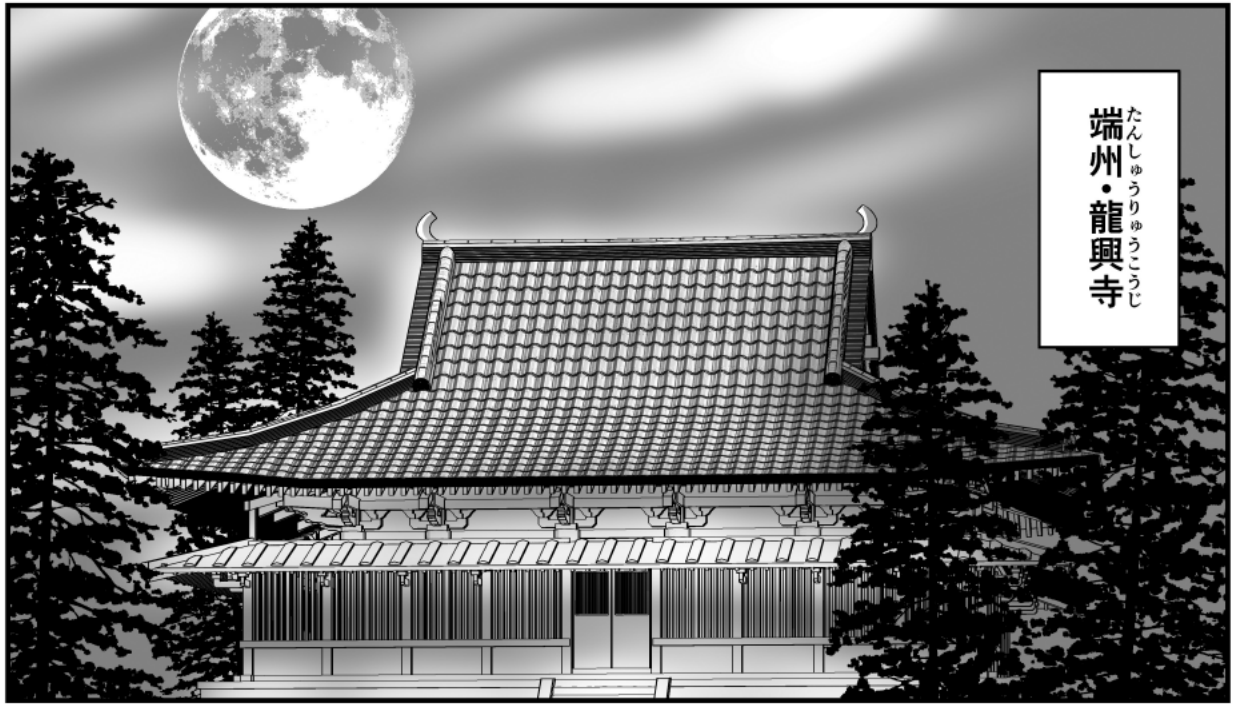


東シナ海

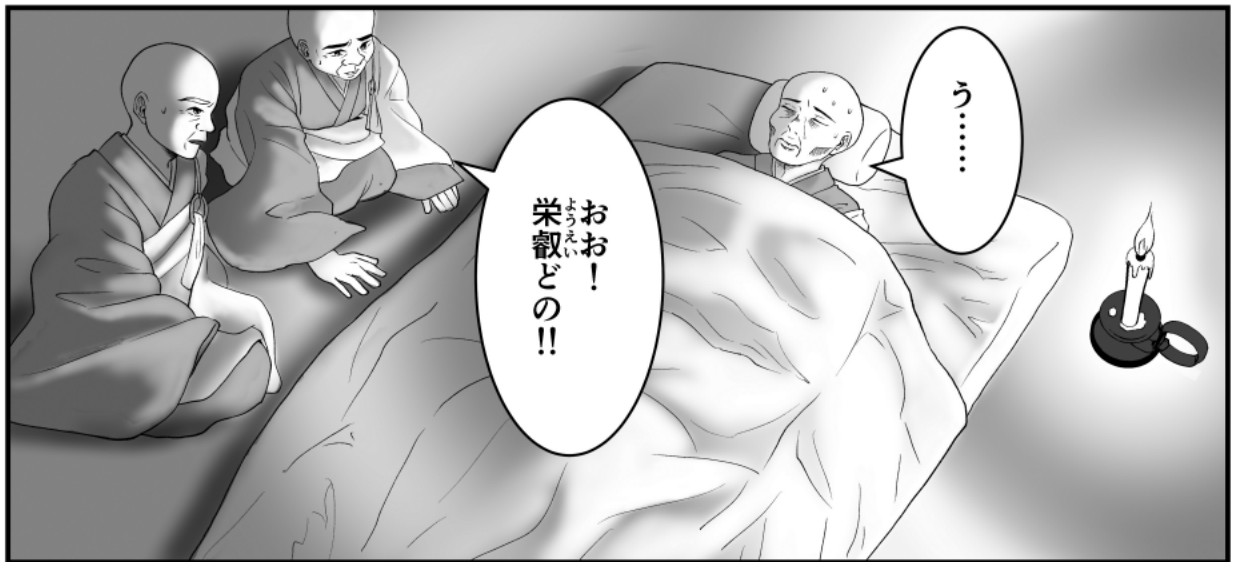
なんとほるか南の  
海南島へと漂着  
大失敗に終わった

熱を出して倒れた栄叡が  
端州・龍興寺に運ばれたのは  
七四九年  
海南島から戻る  
道中であつた

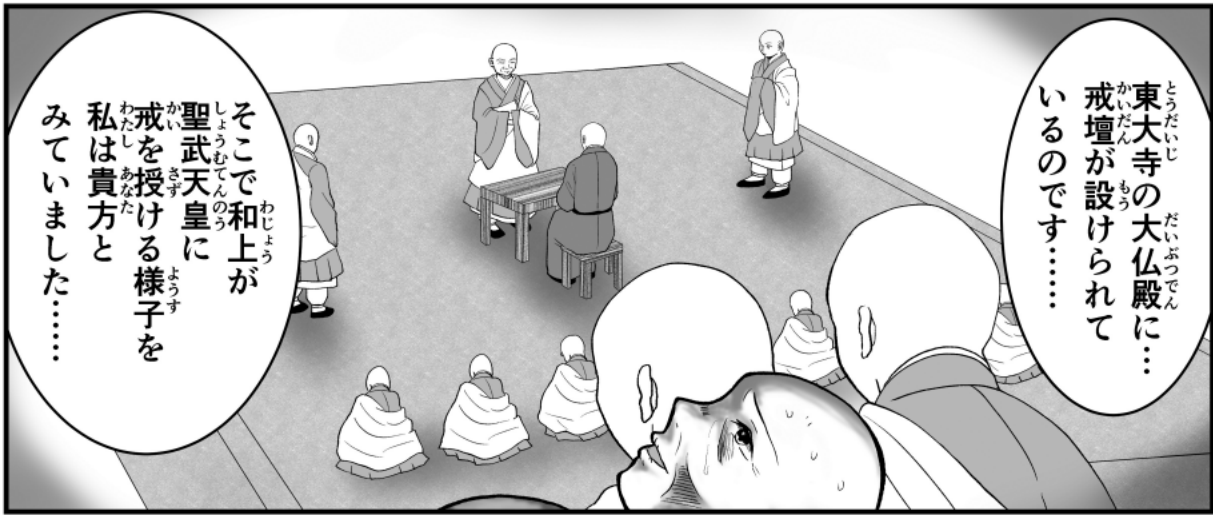




端州・龍興寺  
たんしゅうりゅうこうじ





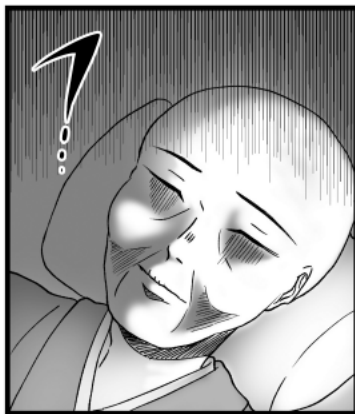


東大寺の大仏殿に…  
戒壇が設けられて  
いるのです……

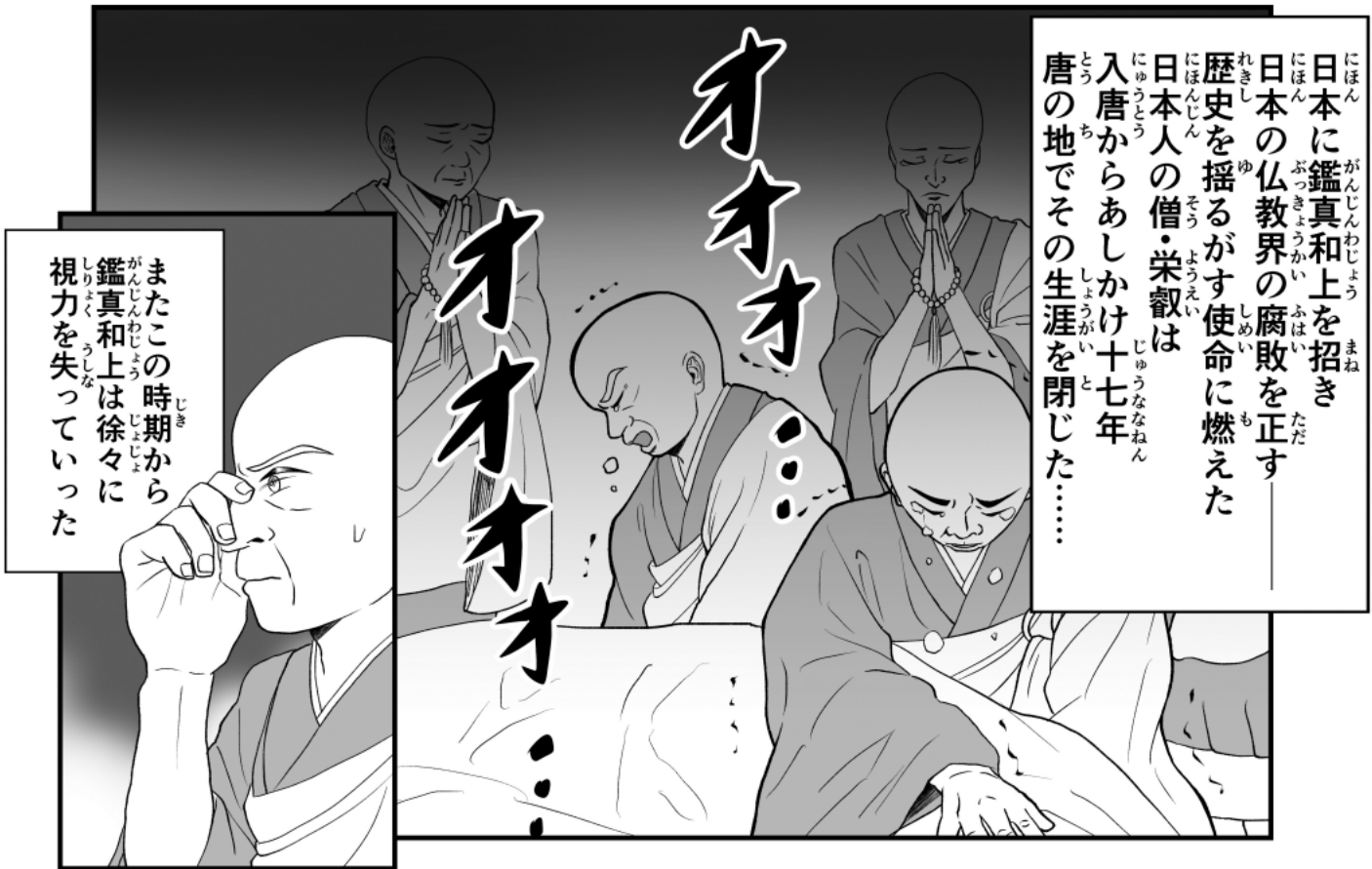
そこで和上が  
聖武天皇に  
戒を授ける様子を  
私は貴方と  
みていました……



よ…  
栄叡どの……?!



かならずや…  
現のもの……



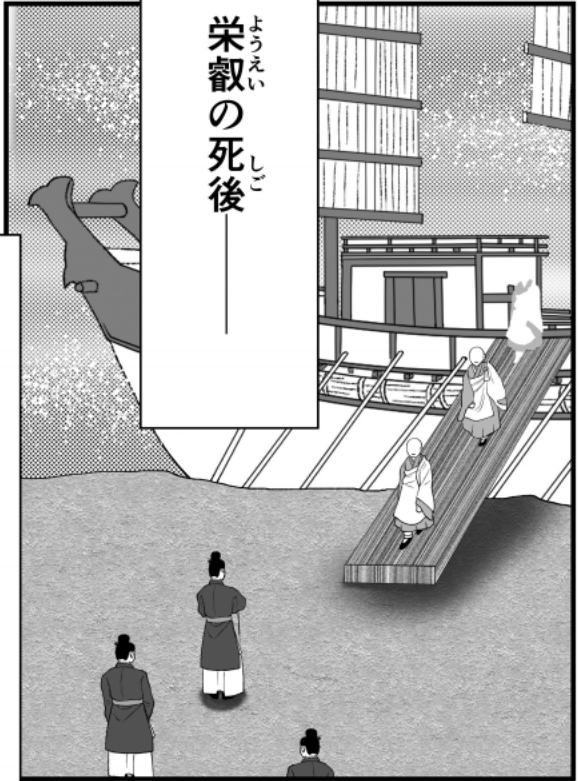
日本に鑑真和上を招き  
日本の仏教界の腐敗を正す  
歴史を揺るがす使命に燃えた  
日本人の僧・栄叡は  
入唐からあしかけ十七年  
唐の地でその生涯を閉じた……



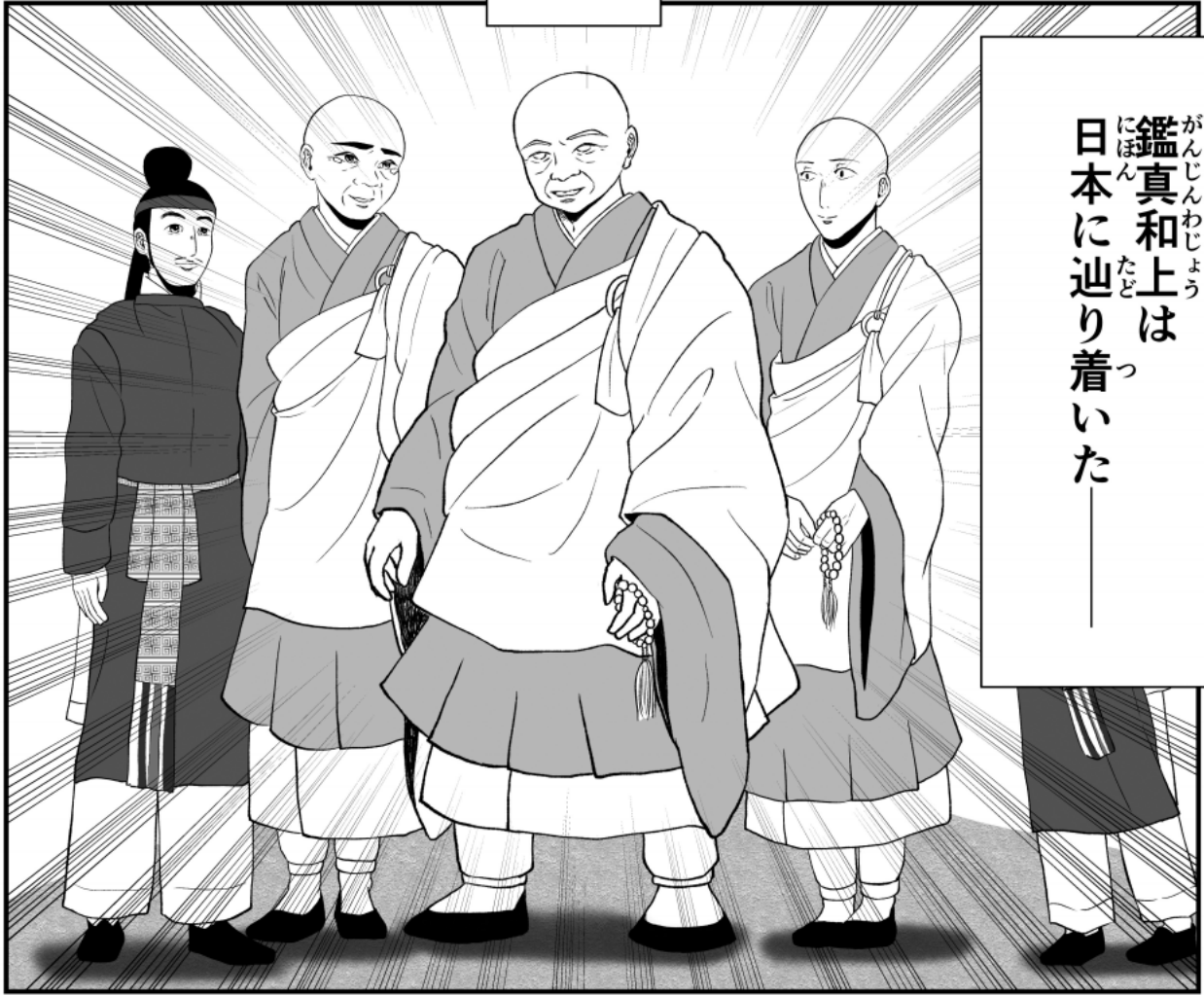
またこの時期から  
鑑真和上は徐々に  
視力を失っていった



六度目の渡航でついに



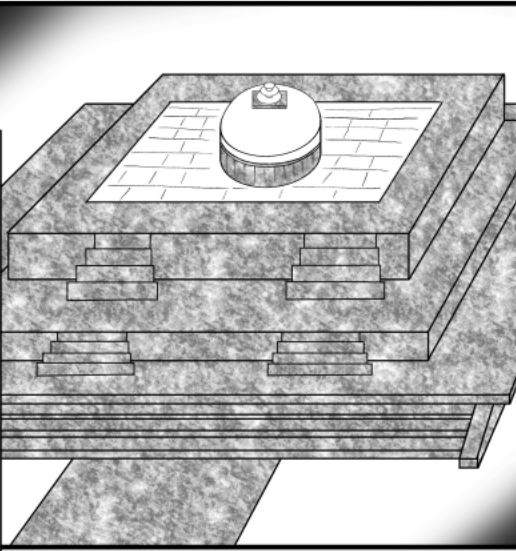
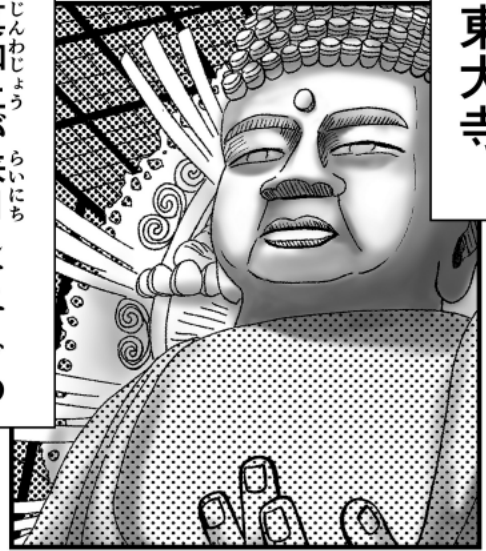
栄叡の死後



鑑真和上は日本に辿り着いた

とうだいじ  
東大寺

がんじんわじょう  
鑑真和尚が来日してすぐの  
ななひやくごじゅうよねんしがつ  
七五四年四月



とうだいじだいぶつでん  
東大寺大仏殿の  
まいえ  
戒壇が設けられた

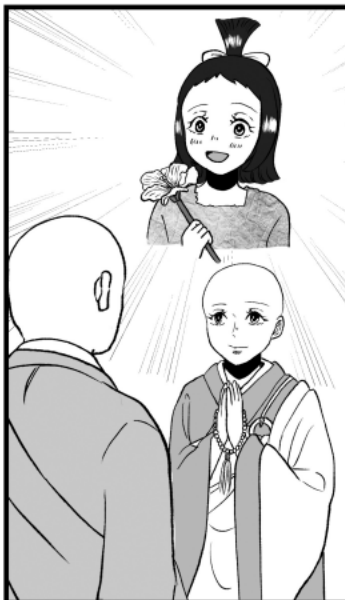
かいだん  
戒壇ではまず  
しょうむてんのう  
聖武天皇が鑑真和尚より  
ぼさつかい  
菩薩戒を受け



つ  
次いで孝謙天皇も  
じゆかい  
受戒した

どうじき  
同時期に受戒した僧は  
よんひやくにん  
四百人を超え

いごさんしちしょう  
以後三師七証による  
じゆかい  
授戒を経た者のみ  
くに  
国の認める僧となる  
しき  
仕組みが整ったのである



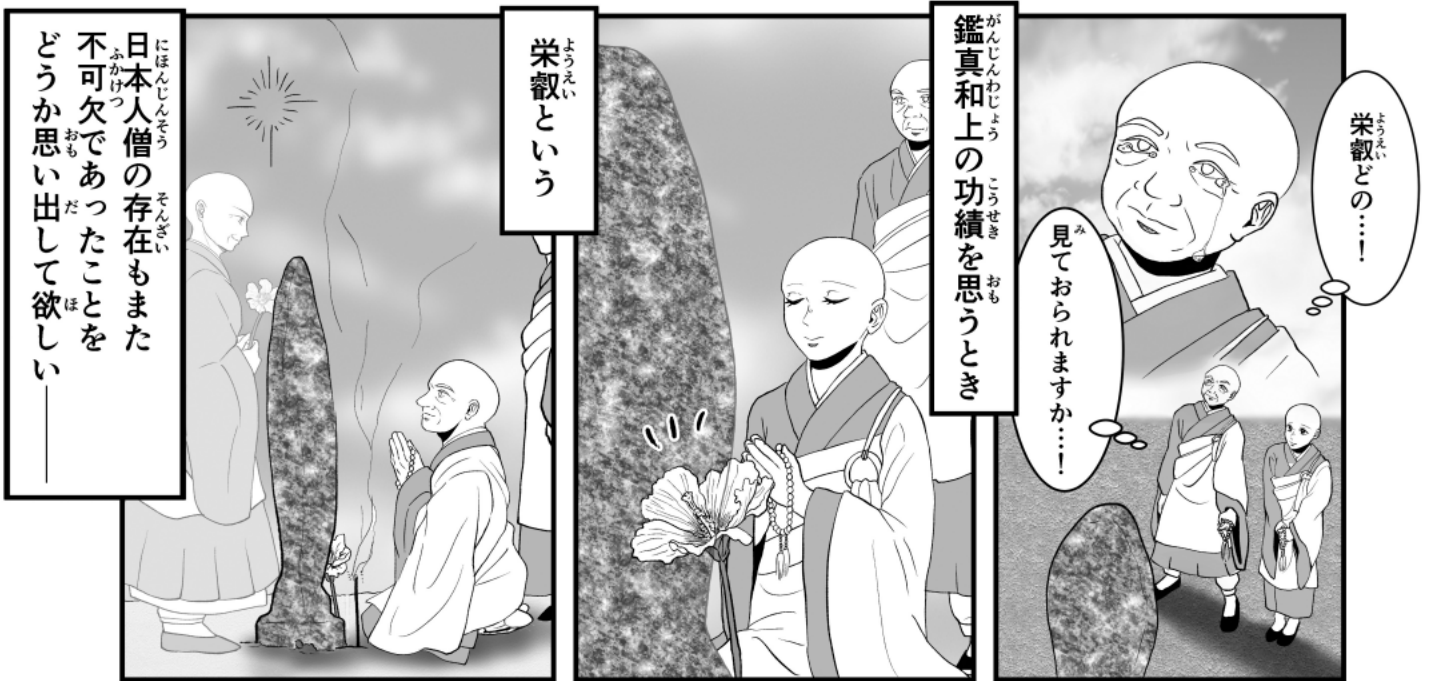


鑑真和尚はその後  
唐招提寺を建立

僧を志す学徒の  
研鑽の場となり  
日本の仏教界に  
極めて大きな影響を与えた

栄叡さまの  
ように  
なりたくて……!

なんで  
受戒を?



日本人僧の存在もまた  
不可欠であったことを  
どうか思い出して欲しい

栄叡  
という

鑑真和尚の功績を思うとき

見ておられますか……!

栄叡どの……!

げんだい ようす  
現代の様子



中国肇慶市・慶雲寺には  
栄叡の功績を称えた  
「日本入唐栄叡大師記念碑」が  
建立され、多くの人が  
お参りに訪れている



また、美濃加茂市伊深  
正眼寺では、  
毎年顕彰法要が行われ

訪れた老若男女が  
栄叡大師を偲んでいます

## 崇叡大師に関する年表

出生 生年未詳～749（天平21年）

「正倉院文書」によれば、美濃国出身の僧で、奈良興福寺で修業

西暦	和暦	唐暦	出来事
733	天平5年	開元21年	崇叡・普照 入唐 第10次遣唐使船で入唐。
742	天平14年	天宝元年	揚州 大明寺 鑑真和上に面会 鑑真和上 55歳 入唐から、9年後であった。
743	天平15年4月	天宝2年	第1回渡航 失敗 密告によって 二人は投獄 8月に釈放 船は没収
743	天平15年12月	天宝2年	第2回渡航 失敗
744	天平16年	天宝3載	第3回渡航 失敗 越州僧の密告で崇叡大師が逮捕され、のち病により没したことにして放逸される。
744	天平16年冬	天宝3載	第4回渡航 失敗 福州からの船出を企てるが、密告により捕らわれ揚州へ護送される。
748	天平20年6月	天宝7載	第5回渡航 失敗 出航するも大漂流となり、10月はるか南方の海南島に漂着。
749	天平21年	天宝8載	端州（現広東省肇慶市）龍興寺で望郷の念を抱きつつ没した。崇叡大師は、40歳代であったと思われる。
753	天平勝宝5年12月	天宝12載	第6回渡航 成功。阿児奈波島（沖縄島）を經由し多禰嶋（種子島）に到着。崇叡入唐より20年経過。鑑真66歳。
754	天平勝宝6年		鑑真和上 東大寺にわが国最初の戒壇を築き、聖武天皇・光明皇后ら430人に授戒を行った。
759	天平宝字3年		唐招提寺を創建。
763	天平宝字7年		鑑真和上逝去 76歳 鑑真の死去の直前、坐像製作される。等身大。現在は国宝です。脱活乾漆という漆づくりで、そのリアルな肖像彫刻では一級のもの。

西 暦	和 暦	出 来 事
1963	昭和 38 年	国交が閉ざされた中で、日中両国の仏教界により鑑真和上円寂 1200 年の記念行事が行われた。このとき中国仏教協会により、異境に骨を埋めた崇叡を偲んで、現在の広東省肇慶市の鼎湖山 <small>テイフーシューン</small> のふもとに立派な記念碑が建てられた。「崇叡なくして鑑真日本に渡らず」
1980	昭和 55 年 4 月	鑑真和上里帰りが実現した。交流気運の高まりの中で、岐阜県有志の方々により石造の崇叡律師坐像が中国に贈られ、肇慶市の鼎湖山上の慶雲寺に設けられた「鑑真紀念堂」に奉安されている。
1983	昭和 58 年	中国の文献に、崇叡・普照のたび重なる懇願により鑑真が命がけで日本渡航を決意した経緯、崇叡が美濃国出身、奈良興福寺の学僧であることについて記載されていることが、日中友好協会に招かれた岐阜県日中友好協会 松尾孝和夫妻によって判明。
1992	平成 4 年	「崇叡大師里帰り実行委員会」結成。
1993	平成 5 年 10 月	加藤東一画伯 <small>とういち</small> 。崇叡大師坐像画が完成。資料のない中、「天平 <small>てんひょう</small> の麓 <small>いらか</small> 」の記述、大柄な猫背で不精ひげを生やした 40 歳近い崇叡像を手がかりに、養老郡上石津町多良の瑠璃光寺の谷 香範住職をモデルにイメージを膨らませて描き上げた、黒い衣に黄土色の袈裟姿。
1995	平成 7 年 6 月 12 日	崇叡大師記念碑が建立されている慶雲寺 <small>けいうんじ</small> 近くの古木で坐像が製作され、北京市広濟寺で崇叡大師坐像 4 体が引き渡された。180 人の訪中団が参加。
1995	平成 7 年 11 月 4 日	崇叡の里帰りが実現した。崇叡大師 1250 年坐像奉迎慶讃大法要 <small>けいざん</small> を盛大に開催し崇叡大師の里帰りを祝った。長良川国際会議場にて。 ※第 1 回崇叡大師顕彰法要
1995	平成 7 年 11 月 6 日	唐招提寺にて、鑑真和上と崇叡大師の坐像対面。この時、遠藤證圓長老は「私共は、1200 年鑑真和上をお守りしてきましたから、ご安心ください。みなさんも美濃のお像をしっかりお守りしてください。」とおっしゃった。
1995	平成 7 年 11 月 7 日	興福寺へ坐像を納めた。
2011	平成 23 年 1 月 29 日	日中文化交流先覚者「美濃出身崇叡大師お里帰り 15 周年と崇叡大師顕彰に尽力された先師への感謝のつどい」開催 450 人参加 岐阜グランドホテルにて。
2021	令和 3 年 11 月 9 日	～崇叡大師坐像お里帰り 25 周年記念～ 日中文化交流先覚者 鑑真和上招聘 美濃出身崇叡大師を顕彰する県民の集い 長良川国際会議場メインホールにて。

# 栄叡大師写真集



唐招提寺にて、鑑真和上（坐像）と対面を果たした  
栄叡大師（坐像）

1995（平成7）年11月6日



栄叡大師顕彰法要

県内の多くのご寺院様が集まります。  
仏教各宗派で、袈裟が異なります。



栄叡大師顕彰法要

毎年、多くの方が参拝されます。



「栄叡大師坐像画（スケッチ）」

日本画家 加藤 東一<sup>とういち</sup>

1916（大正5）年1月6日～  
1996（平成8）年12月31日  
岐阜市出身、文化功労者





栄叡大師坐像修復の様子①

栄叡大師坐像を修復するために用意された工具



栄叡大師坐像修復の様子②

坐像内部を削り成形

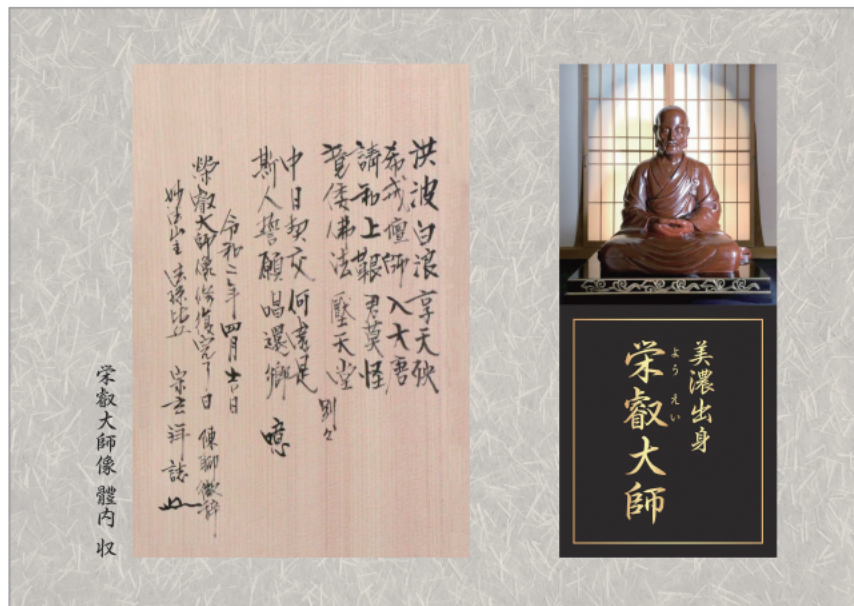


栄叡大師坐像修復の様子③

坐像に漆を塗る。漆には、防腐、防虫、防水、防菌など保護する効果があり、美しい光沢があります。



修復が完了した栄叡大師坐像



栄叡大師坐像に収められた体内文  
 正眼寺住職 山川宗玄 老大師 筆

## 慶雲寺に建立されている崇叡大師記念碑



◁趙樸初<sup>ちやうはくしよ</sup>中国仏教協會會長<sup>きごう</sup>揮毫の「日本入唐留學僧崇叡大師記念碑」



◁崇叡大師記念碑の裏に趙樸初先生が揮毫された崇叡大師をたたえる賛

### 碑文訳

#### 凄まじき氣迫を持った崇叡大師をたたえる言葉

崇叡大師の心は、中国の高僧鑑真和上を日本に招聘したいという願いであふれていた。崇叡大師は、この願いを唐の国を10年間も旅し、ようやく鑑真和上に伝えることができたが、唐は自国の法・宗を固く守ろうとしたため、鑑真和上と崇叡大師は、国禁を犯し何度も日本への渡航を試みた。

崇叡大師の願いは叶わないまま道半ばにして世を去ったが、遺志は中国の大地に継がれ、崇叡自身は帰国できずともその遺志は日本に届いた。これからも永遠に忘れられることは無い大師の功績は、日中兩國に燦燦と光り輝き、我ら後に続く者もその足跡を辿らなければならない。

訳：国文学者 岡田悠子

原案・作画 **山本 漢** (やまもと ひろ)

三重県出身

表現方法はデジタルで描く漫画やイラストレーション  
遺跡や民族衣装を身に纏った人物を描くことが多い

編集 **河野智仁** (こうの ともひと)

1977年 岐阜県出身

2001年 龍谷大学理工学研究科物質化学専攻修了

2002年得度 翌年より浄土真宗本願寺派浄安寺住職

---

## 参考文献一覧

「唐大和上東征傳」

「古代東アジア世界史年表」 専修大学

「国宝鑑真和上展 唐招提寺金堂平成大修理記念」 小野雅弘 (2001年)

「鑑真和上 (一) 戒律僧を求めて」

[https://history.kaisetsuvoice.com/Nara\\_Ganzin1.html](https://history.kaisetsuvoice.com/Nara_Ganzin1.html)

「鑑真 戒律を伝えた僧」 ひろさちや・芝城太郎 (1992年)

「天平の甕」 井上 靖 (1957年)

「栄叡大師 美濃にふたたび」 (1996年)

「山川異域 風月同天」 の漢詩全文の意味と読み方 中国への支援で話題

<https://tankanokoto.com/2020/02/yamakawa-kansi.html>

山川、域を異にすれども、風月、天を同じゅうす 高德院

<https://www.koutokuin.jp/blog/2020/02/08/1969/>

---

2021年 11月 1日 初版第1刷発行

制作・著作／栄叡大師奉賛会

助 成／クラウドファンディング支援者の皆様

公益財団法人 田口福寿会

公益財団法人 十六地域振興財団

資料協力／律宗総本山唐招提寺、臨済宗妙心寺派正眼寺

制作協力／張毅駿、岡田悠子、中島佛檀佛具店、浄土真宗本願寺派浄安寺

美濃出身栄叡大師を顕彰する県民の集い実行委員会

岐阜県仏教会

写真協力／株式会社 サン・アド、有限会社 宮本仏壇店

印刷／岐山タイプ印刷

---



栄  
叡  
なくして  
鑑  
真  
日本に渡らず